

研究課題名	2型糖尿病患者におけるキサンチン酸化還元酵素の意義の検討
研究の意義・目的	2型糖尿病患者様において血糖コントロールが悪化する原因として、インスリン分泌能の低下やインスリン感受性の低下が知られています。これまでに、キサンチン酸化還元酵素(XOR)は血糖コントロールと関連し、XOR阻害薬の投与が血糖コントロールを改善させることが報告されています。しかしながら、XORがどのようにして血糖コントロールに影響を与えるのかは明らかになっていません。また、糖尿病神経障害との関係も明らかになっていません。そこで本研究では、2型糖尿病患者様を対象に、XOR阻害薬の服用の有無と、インスリン分泌能、インスリン感受性、神経障害との関連性を調査し、2型糖尿病患者様におけるXORの意義を明らかにすることを目的とします。
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日 ~ 2028年3月31日
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2015年4月~2023年3月に大阪公立大学医学部附属病院の生活習慣病・糖尿病センターに2型糖尿病のために入院された18歳以上の方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 ①患者様情報：年齢、性別、身長、体重、腹囲、既往疾患、服薬歴(尿酸降下薬を含む)、喫煙歴、アルコール、生活習慣病歴 ②血圧測定、シェロング試験：医療用電子血圧計 ③CVR-R (coefficient of variation of R-R intervals) の評価：解析付き心電計 ④身体所見：左右アキレス腱反射、左右内踝振動覚 ⑤血液・尿検査結果：eGFR、血糖、HbA1c、GA、IRI、CPR、T-C、LDL、HDL、TG、UA、AST、ALT、CK、LDH、尿アルブミン、インスリン分泌指数、インスリン抵抗性指数
試料・情報を利用す る者の範囲	この研究は大阪公立大学医学部附属病院 生活習慣病・糖尿病センターのみで行います。
試料・情報の管理に ついて責任を有する 者の研究機関の名称	公立大学法人大阪、大阪公立大学医学部附属病院
本研究の 利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学 (担当者氏名) 藏城 雅文 電話番号：(06) 6645-3806 メールアドレス：masafumi-kurajoh@omu.ac.jp